

第3学年 国語科学習指導案

日 時 2組 令和6年6月5日(水) 3校時
1組 令和6年6月14日(金) 5校時
対 象 1組18名 2組19名
授業者 1組 植木 優介 2組 木村 剛

<研究主題>

目的に応じて読みを深め、自分の考えを表現できる児童の育成
～説明的文章の学習を通して～

1 単元名 まとまりをとらえて読み、説明文を書いて伝え合おう
～新しい文様の説明文の交流会～
教材名 文様／こまを楽しむ(光村図書)

2 単元の目標

- (1) 全体と中心など情報と情報の関係について理解することができる。 [知識及び技能](2)ア
- (2) 段落の役割について理解することができる。 [知識及び技能](1)カ
- (3) 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。 [思考力・表現力・判断力等]C(1)ア
- (4) 目的を意識して、中心となる語や文を見つけることができる。 [思考力・表現力・判断力等]C(1)ウ
- (5) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 [学びに向かう力、人間性等]

3 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) ②段落の役割について理解している。((1)カ)	①「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(C(1)ア) ②「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けている。(C(1)ウ)	①進んで段落相互の関係に着目しながら内容を捉え、学習課題に沿って説明する文章を筆者の説明の仕方を基に書いたり、読んだりして感想を伝え合おうとしている。

4 単元について

(1) 学習指導要領との関連

本単元は、小学校学習指導要領(平成29年告示)国語編第3学年及び第4学年に記載されている次のことを扱っている。【学習指導要領から抜粋】

[知識及び技能]

(1)カ 主語と述語のとの関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。

[思考力、判断力、表現力等]C読むこと

(1)ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。

オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。

(2) 教材について

本教材の「文様」では、3種類の文様、「こまを楽しむ」では、6種類のこまを題材とした説明文である。2つの説明文を読み、「どのような順序で説明されているのか」ということに関心をもちながら読み進めることで、文章の内容だけでなく、筆者の説明の仕方に対する課題を設定することで、構成に着目することもできる。本単元では、「はじめ（問い）」「中（問いの答え）」「おわり（まとめ）」の3部構成となっており、各段落の役割が分かりやすく、構成を捉えやすい説明文である。単元のまとめで、筆者の説明の仕方を参考にして「新しいこまの説明文」と「新しい文様の説明文」を書くことができるよう、文章の構成や書き方に着目させる。

(3) 児童の実態

4月に実施した「国語科の学習に関する意識調査」の結果は以下のとおりである。

【実施日：令和6年4月16日 対象児童：葛飾区立清和小学校第3学年児童37名】

	質問	好き	どちらかと言えば好き	どちらかと言えば嫌い	嫌い
①	国語科の学習は好きですか。	27%	63%	7%	3%
	【好きな理由】 ・漢字の学習が好きだから。 ・人物の気持ちを考えることが好きだから。 ・音読が好きだから。 ・文章が書けるようになるから。 【嫌いな理由】 ・文章を読むことが難しいから。 ・作文が苦手だから。				
②	説明文の学習は好きですか。	32%	48%	20%	0%
	【好きな理由】 ・「そうか。」と思うことが多いから。 ・説明文は意味が分かりやすいから。 【嫌いな理由】 ・難しいから。 ・説明文は、意味が分からないことが多いから。 ・長い文章は、意味が分からないことが多いから。				
③	物語文の学習は好きですか。	43%	40%	14%	3%
	【好きな理由】 ・文章が読みやすいから。 ・登場人物の気持ちを想像するのが楽しいから。 ・心を込めて読むことが楽しいから。 ・感想文を書くことが好きだから。 【嫌いな理由】 ・人物の気持ちを想像することが難しいから。 ・物語文を読むのが難しいから。				
④	意味の分からない言葉があったときに、意味を調べていますか。	35%	48%	11%	6%
	【調べている理由】 ・次にその言葉が出てきたときに分かるから。 ・自分のためになるから。 ・分からないことが分かるとスッキリするから。 【調べていない理由】 ・調べるのが面倒だから。 ・国語辞典を使うのは難しいから。				
⑤	音読は好きですか。	37%	46%	11%	6%
	【好きな理由】 ・楽しいから。 ・登場人物になりきって読むのが面白いから。 ・すらすらと読めるようになるのが嬉しいから。 【嫌いな理由】 ・難しいから。 ・疲れるから。 ・音読よりも歌を歌う方が好きだから。				
⑥	本を読むことは好きですか。	43%	38%	14%	6%
	【好きな理由】 ・絵本や図鑑が面白いから。 ・いろいろな話があって楽しいから。 ・読み聞かせの時間が好きだから。 ・嫌な気分の時に読書すると心が晴れるから。 【嫌いな理由】 ・文字が多い本は難しいし、つかれるから。 ・面白い本があまりないから。				
⑦	思ったことや考えたことを書くことは好きですか。	35%	48%	17%	0%
	【好きな理由】 ・文にまとめることが好きだから。 ・友達に自分のことを伝えたいから。 【嫌いな理由】 ・書くことが苦手だから。 ・どうやって書けばいいのか分からないから。				
⑧	自分の考えをペアやトリオに伝えることは好きですか。	48%	35%	11%	6%
	【好きな理由】 ・友達から教えてもらえるから。 ・友達の意見を参考にできるから。 【嫌いな理由】 ・自分の意見が思いつかないときがあるから。 ・恥ずかしいから。				
⑨	自分の考えを学級全体の前で伝えることは好きですか。	21%	40%	30%	9%
	【好きな理由】 ・みんなの考えを聞くことができるから。 ・褒められるから。 【嫌いな理由】 ・間違えるのが嫌だから。 ・恥ずかしいから。				

【これまでの学習から】

説明的文章を扱う単元は、児童が3年生になってから初めてとなる。2年生の1学期の「たんぽぽ」の学習では、どんなことがどんな順序で説明されているか学習した。「サツマイモの学習」の学習では、2つの文章を読み比べて、分かったことや考えたことを伝え合った。2学期の「ビーバーの大工事」の学習では、自分の知りたいことが何なのか確かめ、知りたいことに関係のある言葉を探して読んだ。3学期の「どうぶつカード」を作ろう」の学習では、調べたことを整理し、分かりやすく書く学習をした。本単元の学習では、段落を分けながら、説明内容を読み取り、本教材における中心は何かを捉えられるようにする。

【意識調査から】

全体的に国語科の学習に前向きに取り組んでいる。そして、好意的な回答が多い。一方で、「説明文の学習は好きですか。」に苦手意識をもつ子は20%である。その理由は、長い文章を読むことや意味が分からないことがあると難しく感じると答えている。意味段落や形式段落に分けて学習することで、説明文も読み方が分かれば意味を理解できると感じることができるよう、丁寧に読み取っていく。国語辞典の学習をする前のアンケートだったが、「意味の分からない言葉があったときに調べていますか。」の肯定的な回答が83%である。現在は使い方を学び、気になる言葉があると「マイ国語辞典」に言葉をためている。

5 研究主題に迫るための手だて

(1) 目的に応じて読みを深めるための手だて

①教材との出合わせ方の工夫

児童が日本の伝統に興味を抱くことができるよう、単元の導入で身近な所にある文様を提示する。東京スカイツリーやラグビー日本代表のユニフォームにも願いを込めて様々な文様が使われていることに触れる。「こま」は、実際に回している映像を提示する。

②ラーニング・マウンテンの活用

児童が学びの全体を俯瞰的に捉え、目的意識や見通しをもって学ぶことができるように、ラーニング・マウンテンを活用する。単元の導入部分で、教師と児童が話し合いながら作成することで、主体的な学びの実現につなげる。単元のゴールで「筆者の説明の仕方」を使い、第4の文様を「市松模様」か「青海波」のどちらかで説明するという目的をもって学習を進める。

③全文一枚プリントの活用

段落同士のまとまりや、文章の組み立て方を捉えられるように、教材文を1枚に表したA3サイズの学習プリントを活用する。説明文を追加できるよう、予め枠を作成し、見通しをもたせ、学習内容を1枚のプリントにまとめることができるようにする。叙述に則した確かな読み取りができるよう、大事な言葉を四角で囲ませたり、問いには赤線、答えには青線、段落の中心になる文には波線を引かせたりする。

④「一人読み」⇒「書く」⇒「交流する」⇒「再構築する」の流れ

教材文を読んで要点をまとめたり自分の考えを書き出したりし、友達と交流する中で比較し、追加・修正を行う。このような流れの中で確かな読みの力を高めさせる。

⑤説明文探偵としての役割を与える

説明文探偵として「筆者の考えを解説する」ために、「書き方の工夫が隠されているので見つけよう」と役割を与え課題を解決させる。説明文を読み取る際は「何が書かれているか」だけでなく、「なぜそのように書かれているか」も考えさせる。「はじめ」には、「これから何を説明するか」を問い掛けながら伝えて、筆者の説明したいことが書かれている。「おわり」には、筆者が何を伝えたいのかがまとめられている。

(2) 自分の考えを表現するための手だて

①全文1枚プリントによる「文章組み立て」の活用

段落同士のまとまりや、文章の組み立てについて読み取ったことを、1枚の学習シート(「全文1枚プリント」)にまとめていく。説明文の「はじめ」、「中」、「おわり」の3部構成の組立てを捉えやすくする。

②マイ国語辞典の活用

3年生になって国語辞典の使い方を学び、本の国語辞典を引いて調べている。分からない言葉があったときには、国語辞典を引かせる。類語や前後の言葉などにも着目させることで、語彙の更なる獲得を目指す。それらをタブレット端末で写真撮影し、マイ国語辞典にすることで、言葉を蓄積・活用できるようにする。

③協働的な学びの場の設定

本単元の最後に、「新しい文様の説明文を書こう」という活動を設定した。児童は、第4の文様として「市松模様」か「青海波」を紹介するために「何が書かれているのか」、「どのように説明されているのか」を捉える必要がある。「こまを楽しむ」の学習の終わりに、第7のこまとして「とうめいこま」の説明文を書き、筆者の説明の仕方を使った書き方を全体で確認する。児童は、新しい文様を説明する活動を通して、本教材で説明されている様々な特徴(内容)を読み取りながら、それがどのような構成で書かれているかを考えることができる。説明する相手を学級の友達と具体的に設定することで、相手に理解してもらおうという目的が生まれるため、より説明方法(内容と構成)を意識して教材に触れることができると考える。本単元のねらいは、段落相互の関係に着目して叙述を捉えることであり、上手に紹介することではないという点は十分留意する。

④表現・実践する場の設定

単元の学習ゴールでは、学習の成果を表現・実践する場を設ける。その中で、児童が互いのよさを認め合い、それが可視化されるよう、「ほめほめカード」を活用し、自信や意欲を高めさせ、次の学びにつなげられるようにする。

⑤「筆者の説明の仕方」を使い、第4の「文様」の説明をする

「文様」の学習では、3つの文様が例示されている。単元のゴールで「筆者の説明の仕方」を使い、「文様」の4種類目の説明を4文で書く活動をする。個別最適化した学習ができるように、「市松模様」か「青海波」の2種類の文様から1つを選び、「4文全て書く」か「1文目と4文目の入っているもので書く」を選択できるようにする。そのために、「こまを楽しむ」の学習の後に「とうめいこま」の説明で練習する。教師が作った6文の資料を4文で説明するために、「筆者の説明の仕方」を知るという目的をもたせる。

6 学習指導計画・評価計画(8時間扱い)

次	時	学習内容・活動	指導上の留意点	◇評価(方法)
1	1	○様々な種類の文様の画像とこまの回っている様子の映像を見せる。 日本の伝統的な文様やこま遊びについて知り、新しい説明を書く学習計画を立てよう。 ○今回の単元でどんなことを学ぶ必要があるか考える。	・身近な文様の画像と、こまが回っている動画を見せる。 ・全文シートを配布する。 ・説明文の読み取りで「段落」と「どんなことがどんな順序で説明されているか」について学習した	◇主—① (記述分析, 発言分析)

		<p>○単元の学習課題と学習計画を「ラーニング・マウンテン」に表す。</p> <p>○段落について確認する。</p>	<p>ことを想起させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的を達成させるためには、どんな力を身に付ける必要があるのかを考えさせ、学習の見通しをもたせる。 ・段落の役割と特徴について確認し、次時の学習につなげる。 	<p>◇知一① (記述分析, 発言分析)</p>
2	2	<p>「文様」のそれぞれの段落にどのようなことが書かれているかたしかめよう。</p>		
	3 (二組本時)	<p>○「文様」を読み、段落の役割を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>○各段落の内容を把握する。</p> <p>○「文様」の文章に書いてあることがなぜ必要なのか考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文様の脚注に書かれている段落の役割を確認させる。 ・説明文探偵として、「何が書かれているか」だけでなく、「なぜそのような書かれているか」も考えさせる。 	<p>◇知一② (記述分析, 発言分析)</p>
		<p>1 前時までの「文様」の学習を振り返り、順序の役割を確認する</p> <p>2 本時のめあてを設定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示している「文様」の全文シートで、読み方を想起させる。 ・ラーニング・マウンテンと前時の振り返りを活用する。 ・めあてを児童に考えさせることで、主体的な学びにつなげる。 	
		<p>段落を「はじめ」、「中」、「おわり」のまとまりに分け、「問い」と「答え」をたしかめよう。</p>		
		<p>3 「こまを楽しむ」を範読し、形式段落に分ける。</p> <p>4 本文を「はじめ」、「中」、「終わり」に分ける。</p> <p>5 「問い」を確認し、「答え」になる文を探す。</p> <p>6 「おわり」を確認し、「中」の説明内容を予想する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全文シートに記入させ、文章の組み立てを理解させる。 ・全部で8つの段落があることを確認し、どのように分けたか理由を付けて発表させる。 ・個人で考え、グループで交流し、その意見をもとにもう一度個人で考え、全体で確認させる。 ・「答え」を見付け、「こまの種類」を赤、「楽しみ方」を青で全文シートにラインを引かせ、こまの何について説明する文章なのか考えさせる。 ・「こまの種類」と「楽しみ方」が「答え」として書かれていることに気付かせる。 	<p>◇思・判・表一① (記述分析)</p>

4 5	<p>7 本時の振り返りと次時の確認をする。</p> <p>○「問い」をもう一度確認し、本時の見通しをもつ。</p>	<p>・「問い」と「答え」を確認し、他の文の必要性を問い、見通しをもたせる。</p> <p>・「こまの種類」と「楽しみ方」という2つの問いを確認させる。</p>	
<p>「中」の答えではないところには、何が書いてあるのかたしかめよう。</p>			
6	<p>○「問い」に対する「答え」を見付け、中心となる文を捉える。</p> <p>○「問い」と「答え」について振り返り、次時の学習のめあてを設定する。</p> <p>○前時を振り返り、「答え」を確かめ、本時のめあてを理解する。</p>	<p>・段落に「答え」が書いてあるが、「答え以外」の文は必要か考えさせる。</p> <p>・1文目に答えが書いてあり、2文目以降に何が書いてあるか考えることで、筆者の説明の仕方に着目させる。</p> <p>・段落ごとの構成を確認させる。</p> <p>・児童が長くサイドラインを引いても、教師は端的にサイドラインを引き、引き方を理解させる。</p> <p>・2文目以降に詳しく書く必要があるか確認し、おわりには何が書いてあるか考えさせる。</p> <p>・前時を振り返り、詳しい説明の必要性を問い、「おわり」への意識を向けさせる。</p>	<p>◇思・判・表－② (記述分析, 発言分析)</p>
<p>「おわり」にどのようなことが書いてあるのか考え、全体のつながりをとらえよう。</p>			
	<p>○前時を振り返り、本時の見通しをもつ。</p> <p>○「おわり」を細分化して、内容と役割を考える。</p> <p>○「中」の構成を再確認し、「回る様子」と「回し方」に分けさせる。</p> <p>○文章全体の構成を振り返り、次時の学習のめあてを設定する。</p>	<p>・8段落に書かれていることを文に区切って、何を伝えたいのか考えさせる。</p> <p>・8段落の1文目は「種類」、2文目は「色や形」、「回る様子」、「回し方」、3文目に「楽しみ方」が書いてあることを確認し、「中」の構成について考えさせる。</p> <p>・次時に「とうめいこま」の説明文を書くことを確認し、「こまを楽しむ」では、筆者がどのような説明の仕方をしてきたか確認させる。</p>	<p>◇思・判・表－① (記述分析, 発言分析)</p>

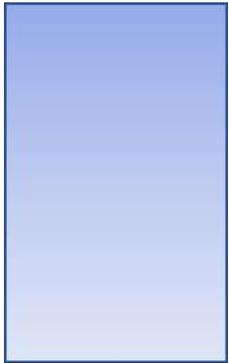
7	○前時を振り返り、本時のめあてを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・全文シートで「こまを楽しむ」では、筆者がどのような説明の仕方をしてきたか確認させる。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> どうめいこまについての説明文を書き、友達と交流しよう。 </div>			
	<p>○「どうめいこま」の説明をするための資料を読み、説明文を書く。</p> <p>○「どうめいこま」の説明文を友達に発表し、全文シートに貼る。</p> <p>○説明の仕方を振り返り、次時の学習のめあてを設定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1つの段落の文章構成や書き方を確認し、書き方をイメージさせる。 ・説明文を「4文全て書く」か「1文目と4文目の入っているもので書く」か選択させる。 ・友達の説明文を聞いて、よかったところを見つけて、ほめほめカードに記入する。 ・次回説明文を書く「市松模様」と「青海波」を紹介し、見通しをもたせる。 	<p>◇主—① (記述分析, 発言分析)</p>
8 (二組本時)	<p>1 前時を振り返り、本時のめあてを確認する。</p> <p>2 2つの文様から紹介したい文様を選び、説明文を書く。</p> <p>3 書いた説明文を校正する。</p> <p>4 新しい文様の説明文を発表する。</p> <p>5 新しい文様の説明文を全文シートに貼る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「どうめいこま」の書き方をもとに書き方を振り返る。 ・「市松模様」と「青海波」のどちらの文様にするか、説明文を「4文全て書く」か「1文目と4文目の入っているもので書く」か選択させる。 ・書き終わったら、筆者の説明の仕方と比較し、文章を校正させる。 ・トリオ、全体の順に発表させる。 ・聞いた子は、説明文の良かった所を発表した子に「ほめほめカード」で伝えさせる。 ・書いた説明文を全文シートに貼ることで、自分だけの「文様」の説明文を書けたことを実感させる。 	<p>◇主—① (記述分析, 発言分析)</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 新しい文様についての説明文を書き、友達と交流しよう。 </div>			

	6 まとまりをとらえて書いた説明文の読み取り方を振り返り、ラーニング・マウンテンのゴールに到達したか振り返る。	・本単元で学習したことをラーニング・マウンテンと使用した資料を使って想起させる。	
--	---	--	--

7 板書計画① (第3時/全8時間扱い)

<p>○振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できたこと ・友達と交流して新たに気づいたこと ・次の学習で取り組んでみたいこと など 	<p>おわり</p>	<p>はじめ</p>	<p>めあて</p> <p>だん落を「はじめ」, 「中」, 「おわり」のまとまりに分け, 「問い」をたしかめよう。</p>
	<p>⑧まともめ・筆者の思い</p> <p>⑦ずぐりの挿絵</p> <p>⑥曲ごまの挿絵</p> <p>⑤たたきごまの挿絵</p> <p>④さか立ちごまの挿絵</p> <p>③鳴りごまの挿絵</p> <p>②色変わりゴマの挿絵</p> <p>答え</p> <p>楽しみ方</p> <p>こまのしゅるい</p>	<p>中</p> <p>問い</p> <p>① (一) どんなこまがあるのでしよう。</p> <p>(二) どんな楽しみ方ができるのでしよう。</p>	

板書計画② (第8時/全8時間扱い)

<p>○振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できたこと ・友達と交流して新たに気づいたこと ・次の学習で取り組んでみたいこと など 	<p>資料2 青海波</p> 	<p>資料1 市松もよう</p> 	<p>めあて</p> <p>新しい文様についての説明文を書き, 友達と交流しよう。</p> <p>どうめいこまの説明文</p>

みんなで解決したい問い
まとまりをとらえて読んで「はじめ」、「中」、「おわり」の関係を理解し, 新しい文様の説明文を書いて交流しよう。

ア わかること・できること
・全体と中心など情報と情報の関係について理解することができる。(2)ア
・段落の役割について理解することができる。(1)カ

イ 考えること・表すこと
・段落相互の関係に着目しながら, 考えとそれを支える理由や事例との関係などについて, 叙述を基に捉えることができる。C(1)ア
・目的を意識して, 中心となる語や文を見つけることができる。C(1)ウ

ウ くふうして学ぶこと
・言葉がもつよさに気付くとともに, 幅広く読書をし, 国語を大切にして, 思いや考えを伝え合おうとする。

第3 ステージ (2) 時間

新しい文様の説明文を書き, 交流する。

- ⑦ 新しいこまの説明文を書き, 友達と交流する。
- ⑧ 新しい文様の説明文を書き, 友達と交流する。

この単元を通したふり返り
・説明文を読み取るとき, どのようなことを気を付けましたか。
・紹介カードを書くとき, どのようなことに気を付けましたか。

第2 ステージ (5) 時間

まとまりをとらえて, 「文様」と「こまを楽しむ」を読み, 説明文探偵として, 文と文の関係をとらえる。

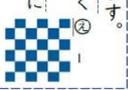
- ② 「文様」を読み, だん落のやくわりをかくにし, 学習の見通しをもつ。説明文探偵のポイントを知る。
- ③ 「こまを楽しむ」のだん落を, 「はじめ」、「中」、「おわり」のまとまりに分けて, 「問い」をたしかめる。「中」の文から, 問いに対する答えとなる文を見つける。
- ④⑤ 「中」の答えではない文に何が書かれているかを見つける。
- ⑥ 「おわり」にどのようなことが書かれているか考え, 全体のつながりとらえる。

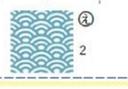
この単元に関わって知っていること, できること
・どんなことがどんな順序で説明されているか調べたことを整理し, 読み取ったことを分かりやすく書くことができる。

第1 ステージ (1) 時間

日本の伝統的な文様やこま遊びについて知り, 新しい説明文を書く学習計画を立てる。

- ① 文様の画像やこま遊びの映像を見て興味をもち, ラーニング・マウンテンを作成する。

おわり	中	はじめ	文様
<p>まとめ、ひっぞの考え</p> <p>このように、文様には、人々の暮らしから生まれたさまざまなねがいがこめられています。そのことを知る、文様をえらんだり、みにつけたりすることがより楽しくなります。</p>	<p>まとめ、ひっぞの考え</p> <p>③ 1の文様は、「市松もよう」といいます。色のちがう正方形や長方形をたてと横にたくさんならべたもようです。えんぎの良いもようとして、たくさんの人に好まれています。そのもようがとぎれることなく続いていくことから、発てんやはんえいのねがいがこめられています。</p> 	<p>まとめ、ひっぞの考え</p> <p>① 服やおでまなどには、文様どよはれいろいろな形の絵や図がこめられています。文様の多くは、「し」、「じ」、「じ」などがあつて「し」といってねがいがこめられています。② どんなにこめられた文様があつても「し」といってねがいがこめられています。</p> <p>② ④ ⑤ ⑥</p>	<p>まとめ、ひっぞの考え</p> <p>① 服やおでまなどには、文様どよはれいろいろな形の絵や図がこめられています。文様の多くは、「し」、「じ」、「じ」などがあつて「し」といってねがいがこめられています。</p> <p>② ④ ⑤ ⑥</p>

おわり	中	はじめ	文様
<p>まとめ、ひっぞの考え</p> <p>このように、文様には、人々の暮らしから生まれたさまざまなねがいがこめられています。そのことを知る、文様をえらんだり、みにつけたりすることがより楽しくなります。</p>	<p>まとめ、ひっぞの考え</p> <p>③ 2の文様は、「青海波」といいます。どこまでも続く波の様子を表しています。いくつも重なる波もようは、広い海がもたらすめぐみがかんじられます。波のように、ずっと幸せが続いてほしいということをねがう文様です。</p> 	<p>まとめ、ひっぞの考え</p> <p>① 服やおでまなどには、文様どよはれいろいろな形の絵や図がこめられています。文様の多くは、「し」、「じ」、「じ」などがあつて「し」といってねがいがこめられています。</p> <p>② ④ ⑤ ⑥</p>	<p>まとめ、ひっぞの考え</p> <p>① 服やおでまなどには、文様どよはれいろいろな形の絵や図がこめられています。文様の多くは、「し」、「じ」、「じ」などがあつて「し」といってねがいがこめられています。</p> <p>② ④ ⑤ ⑥</p>

